

- 問1 7世紀後半、日本（倭）は百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。その後、唐や新羅による日本への侵攻に備え、九州北部に位置する政治の拠点「大宰府」を守るために築かれた、大規模な土塁と堀による防衛施設を何といいますか。（2022年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 水城 | 2. 多賀城 | 3. 防人 | 4. 烽火 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問2 天智天皇の後継者争いに勝利して即位した天武天皇が、その後の政治において目指した国家のあり方として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 有力な貴族が政治の実権を握り、天皇を補佐する摂関政治の確立 | 2. 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設 | 3. 武士が政治の表舞台に立ち、幕府を開いて軍事力を中心に統治する仕組み | 4. 地方の豪族がそれぞれの土地を私有し、独立した権限を持つ封建制の導入 |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 問3 645年に中臣鎌足らと協力して蘇我氏を倒し、土地や人々を国家が直接支配する「公地公民」の仕組みを導入するなど、天皇中心の国づくりを目指した人物は誰ですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 徳川家康 | 2. 聖徳太子 | 3. 足利尊氏 | 4. 中大兄皇子 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問4 飛鳥時代の政治制度の変遷を整理した資料において、戸籍の作成や大宝律令の制定と並んで「十七条の憲法」が記述されています。この法の内容や特徴について正しく述べたものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 仏教や儒教の思想に基づき、役人が守るべき道徳や心得を全十七条にわたって記した。 | 2. 浄土信仰の広まりを背景に、貴族から庶民までが等しく守るべき救済の教えをまとめた。 | 3. 鑑真が伝えた戒律をもとに、僧侶が守るべき厳格な修行の規則を体系化した。 | 4. 武士社会の慣習法を整理し、幕府が御家人を統制するための裁判基準を定めた。 |
|--|---|--|---|
- 問5 白村江の戦いにおける大敗後、大和政権が急速に中央集権体制の確立（公地公民や律令の整備）を急いだ背景として、当時の東アジア情勢から考えられる理由を説明したものとして適切なものはどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。 | 2. 平氏や源氏といった武士団の台頭を抑え、天皇中心の軍隊を再編する必要があったから。 | 3. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることで精神的な団結を図ったから。 | 4. 朝鮮半島での利権を完全に放棄し、国内の開墾事業に専念して食糧増産を目指したから。 |
|--|---|---|---|
- 問6 7世紀、日本では中大兄皇子らが政治改革を進める一方で、朝鮮半島の情勢変化に対応した外交が行われました。唐によって滅ぼされた友好国の再興を支援するために倭（日本）が朝鮮半島へ大軍を派遣した出来事について、その目的と対戦相手の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 1. 新羅の領土拡大を阻止するため、唐の軍隊と単独で戦った | 2. 百済の再興を支援するため、元（モンゴル）の軍隊と戦った | 3. 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った | 4. 高句麗の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った |
|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
- 問7 607年に小野妹子が隋に派遣された際、持参した国書には「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや」という趣旨の一文がありました。このような外交姿勢をとった背景にある、当時の日本（倭国）の目的として適切なものを選びなさい。（2023年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国の領土の一部を譲り受ける代わりに、日本の特産品を朝貢品として献上すること | 2. 中国と対等な立場での外交関係を築きつつ、高度な政治制度や文化を取り入れること | 3. 中国の皇帝に軍事的な従属を誓うことで、朝鮮半島への出兵を支援してもらうこと | 4. 中国に対して臣下としての礼を尽くし、国王としての称号と金印を授かること |
|---|---|--|--|
- 問8 飛鳥文化が栄えた時代の歴史的な出来事について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. 聖武天皇が国ごとに国分寺を建て、奈良に東大寺の大仏を造立させた。 | 2. 鑑真が来日して唐招提寺を建立し、仏教の正しい戒律が日本に伝えられた。 | 3. 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。 | 4. 空海や最澄が唐から新しい仏教を伝え、比叡山や高野山に寺院が開かれた。 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---|---------------------------------------|
- 問9 大分県などの九州地方の歴史を記した年表において、倭国（日本）の軍勢が朝鮮半島へ出兵し、唐・新羅の連合軍に敗れた「白村江の戦い（663年）」が含まれる区分として、適切な世紀を選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 8世紀 | 2. 9世紀 | 3. 6世紀 | 4. 7世紀 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問10 7世紀、大化の改新を推進した中大兄皇子は、友好関係にあった百済を復興させるために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、ある連合軍に大敗を喫しました。このとき、日本（倭）が戦った相手である連合軍の正しい組み合わせを選びなさい。（2016年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. 隋・新羅の連合軍 | 2. 唐・新羅の連合軍 | 3. 唐・高句麗の連合軍 | 4. 元・高麗の連合軍 |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
- 問11 663年に朝鮮半島の西側沿岸部（現在の錦江の河口付近）で起きた白村江の戦いで敗れた後、日本国内で強化された防衛政策として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 国内の武士を統制するために「御成敗式目」を制定し、軍事的な結束を固めた。 | 2. 唐との友好関係を回復させるため、最澄や空海を遣唐使として派遣し、大陸の文化を導入した。 | 3. 唐や新羅の侵攻を警戒し、対馬や北九州などに「防人」を配置し、水城や山城を築いた。 | 4. 元（モンゴル帝国）の再来に備え、博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を構築した。 |
|---|--|---|---|
- 問12 7世紀初め、推古天皇の摂政として政治を行い、家柄にとらわれず才能や功績のある人物を役人に登用する「冠位十二階」や、役人が守るべき道徳的な心得を記した「十七条の憲法」を定めた人物は誰か。（2020年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. 徳川綱吉 | 2. 大久保利通 | 3. 後醍醐天皇 | 4. 聖徳太子 |
|---------|----------|----------|---------|
- 問13 飛鳥時代に遣隋使が派遣された背景や目的について説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2017年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。 | 2. 仏教を日本から中国へ広めるために、聖徳太子自らが選んだ高僧を派遣した。 | 3. 中国との貿易において、日本産の銀や銅を輸出して経済的な利益を独占しようとした。 | 4. 朝鮮半島での戦いを有利に進めるため、中国の軍事的な援助を直接受けることを目的とした。 |
|---|--|--|---|
- 問14 7世紀前半の聖徳太子（厩戸王）が政治を行っていた時代に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何といいますか。（2023年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| 1. 弘仁・貞観文化 | 2. 飛鳥文化 | 3. 天平文化 | 4. 国風文化 |
|------------|---------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 水城	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大陸からの報復による侵攻を強く警戒しました。九州の政治・外交の要所であった大宰府を防御するため、その北側に全長約1.2km、高さ約10mにも及ぶ巨大な土塁を築き、博多湾側には水を湛えた堀を設けました。これを水城と呼び、日本の古代国家における防衛体制の整備を象徴する遺構となっています。
問2	答え 2 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設	壬申の乱に勝利して絶大な権力を手にした天武天皇は、それまでの豪族たちの勢力を抑え、天皇に権力を集中させることを目指しました。この方針は後の大宝律令の完成へとつながり、日本における法に基づく統治（律令国家）の基礎となりました。
問3	答え 4 中大兄皇子	蘇我氏を倒した「乙巳の変」から始まる一連の政治改革は「大化の改新」と呼ばれます。中大兄皇子は中臣鎌足（後の藤原鎌足）とともに、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家が管理する体制への転換を図りました。
問4	答え 1 仏教や儒教の思想に基づき、役人が守るべき道徳や心得を全十七条にわたって記した。	十七条の憲法は、現代の憲法のような統治の仕組みを定める法律とは異なり、役人の精神的な心構えを説いた「教訓」としての性格が強いものです。飛鳥時代に導入された大陸の思想である儒教（礼儀や秩序）と仏教（慈悲の心）を融合させている点が、当時の文化的な特徴を反映しています。最澄や空海、鑑真などはより後の時代に活躍した人物であり、時代背景の混同に注意が必要です。
問5	答え 1 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。	対外的な軍事的敗北は、当時の政権にとって国家滅亡の危機でもありました。唐や新羅の侵攻に備えるためには、軍備を整えるだけでなく、戸籍を作成して徴兵や徴税を確実に行える強力な政府（中央集権国家）を作る必要がありました。これが、天智天皇から天武天皇、持統天皇へと続く律令国家建設の大きな動機となりました。
問6	答え 3 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされると、倭（日本）は友好国であった百済の遺臣から救援を求められました。中大兄皇子は百済を再興させるために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、663年に白村江（はくすきのえ）で唐・新羅の連合軍と衝突し、倭の水軍は壊滅的な打撃を受けて大敗しました。この敗北は、その後の日本の国内体制の整備や防衛強化に大きな影響を与えました。
問7	答え 2 中国と対等な立場での外交関係を築きつつ、高度な政治制度や文化を取り入れること	聖徳太子は、当時の中国の皇帝（煬帝）に対して対等な立場で国書を送りました。これは、これまでの中国に従う形式の外交ではなく、日本が独立した国家であることを示しながら、最新の政治体制（律令など）や仏教を主体的に学び、国内の権威を高める狙いがありました。この姿勢は隋朝を驚かせましたが、当時の東アジア情勢も影響し、交流は継続されました。
問8	答え 3 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。	飛鳥文化の背景には、遣隋使の派遣によって中国（隋）の進んだ文化や仏教が直接導入されたことがあります。鑑真や聖武天皇の事績は8世紀の奈良時代（天平文化）、空海や最澄の活動は9世紀初めの平安時代（弘仁・貞観文化）の出来事であり、飛鳥文化とは時期が異なります。
問9	答え 4 7世紀	白村江の戦いは西暦663年に発生しました。西暦601年から西暦700年までの期間が7世紀に該当するため、この戦いや、その直後に強化された九州の防衛（水城や大野城の築城など）は、すべて7世紀の出来事として分類されます。
問10	答え 2 唐・新羅の連合軍	663年、日本は滅亡した百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江（はくすきのえ）の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。この敗北は、その後の日本の国内体制の整備や国防の強化に大きな影響を与えました。
問11	答え 3 唐や新羅の侵攻を警戒し、対馬や北九州などに「防人」を配置し、水城や山城を築いた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した日本は、その後の報復や日本本土への侵攻を強く恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は、対馬や壱岐、北九州などの国防の最前線に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置するとともに、大宰府を守るための「水城（みずき）」や、朝鮮式山城を各地に築いて防衛体制を急いで整えました。また、都も内陸の大津宮（近江大津宮）へと移されました。
問12	答え 4 聖徳太子	推古天皇を助ける摂政として活躍したこの人物は、中国の進んだ制度を取り入れることで、天皇を中心とした中央集権的な国家体制の基盤を築こうとしました。これは後の律令国家形成に向けた重要な一歩となりました。
問13	答え 1 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。	当時の日本は、冠位十二階や十七条の憲法の制定など、国内の政治体制を整える必要があった。そのため、中国の進んだ政治制度や文化を吸収し、国内の豪族を統制して天皇中心の政治を確立することが派遣の大きな目的であった。
問14	答え 2 飛鳥文化	この時期の文化は、法隆寺の建築や広隆寺の弥勒菩薩像などに代表される日本初の仏教文化です。中国の南北朝時代の文化の影響を強く受けているのが特徴で、渡来人によって伝えられた技術が寺院の建設や仏像の制作に活かされました。